■二宮文　　二宮尊徳の娘。父尊徳の男女平等扱いで，会計事務等こなすも，早世した。
にのみやふみ
ｼｰﾎﾞﾙﾄ鳴瀧塾1824＝　　旗本宇津家領下野国桜町の陣屋に生れる。母は岡田波。

富籤流行・・1830＝ 6歳：この頃，手習いを始め，父の門弟たちとの議論にも兄弥太郎とともに同席して学ぶ。

天保大飢饉始1833＝ 9歳：
高島砲術・・1834＝10歳：この頃，京都の書家不退堂倉田聖純について習字，

・・・・・・1836＝12歳：この頃から，_谷文晁の弟子の画家大岡雲峰に絵を学び，奇峰の雅号をもらう。
大塩平八郎乱1837＝13歳：
適塾ｵｰﾌﾟﾝ・ 1838＝14歳：_烏山藩の家老の息子大久保金吾文隣に書を学び，松隣と号した。のちに書や絵は江戸で評判となる。

_尊徳は男女平等の観点から兄と同じ教育を文に与え，針仕事などはさせず，仕法の仕事を分担させた。『年中日記出入帳』を兄とともに記し，仕法の進展や領内の動きにも通じていた。
天保改革弾圧1842＝18歳：_尊徳が幕府に登用され，続いて真岡代官所手付として単身赴任してからは，桜町で客の接待や宿泊者の世話をし，『当座金銀米銭出入帳』の計算，なかでも報徳金の受け払いを細かく記載した。

阿部正弘首座1845＝21歳：
孝明天皇・・1846＝22歳：病に倒れたが，その間も日記を書き続けた。

尊徳報徳論・1851＝27歳：
万次郎帰国・1852＝28歳：_父の門人筆頭の中村藩士富田高慶と結婚，相馬に住み，城下の娘たちに手習いを教えた。懐胎して，
ペリー来航・1853＝29歳：_東郷へ里帰りし，難産の末死産。容体は回復せず，没した。文の意志により土葬され，父が桜町陣屋に近い蓮城院に葬った。